

平成 24 年度 第 5 回経済学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

- I. 日 時：平成 24 年 9 月 12 日(水) 11:00～
- II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者：林委員長、望月委員、渡邊委員(skype)、碓井委員
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 議事概要

1. 検討事項 教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題について

検討に先立ち、事務局から本日の資料について説明があった。前回までに「教育力を
実現するためのFD活動と大学としての課題」をまとめたが、今回は各委員が担当して作成
してきた「学士力の背景」および「到達目標の解説 1～5」をまとめた。

- 「学士力の背景」をまとめるに際して、以下の点に配慮した。
 - 「学士力の背景」では経済学の使命を一文で述べるために「現代の「豊かな文明
社会」における経済学教育は、学部教育課程において経済学の基礎学力を学士力
として修得させる使命を担い、それを目的とする」から「経済学は、地球上の有限で
希少な資源を効率的に用いてか、必要な財貨・サービスを生産・分配・消費する
活動を科学的に研究することを通じて、人間社会を豊かにすることを使命として
いる」との表現に修正した。
 - 第 2 パラグラフでは、経済活動の国際化・グローバル化に関して光と影の側面を
際立たせる表現に改めた。そして、第 3 パラグラフでは「政治や政府の判断に必
ずしも依存することなく」という表現を加えることによって、経済活動を市民が
自らの問題としてとらえることの必要性を述べた。また同時に、グローバル化の
影の部分も認識しながらも、それを乗り越えていくためには既存の経済学だけ
でなく、他の学問領域とも幅広く協同しゆくような問題解決アプローチが必要であ
ることも述べた。
 - 第 4 パラグラフの一文で、以上の問題を乗り越えるための経済学教育の狙いを端
的に表現した。
- 到達目標の解説 1～5 を適切な表現となるよう修正を加えた。例えば、到達目標 5 の中
で、学際的でグローバルな観点を「一企業・一国の利益だけに立脚せず、相互依存関
係の上に成り立つという共生の価値観」と表現したことである。

2. 今後の検討スケジュール

今回まとめた学士力の背景(全体)および到達目標について、文章校正をされたい。

今回の会議での作業は完了であるため、次回の開催日程は未定である。

以上